

「障がいがある人が障がいのある人へ教育」

今まで障がいがある人への教育について学習してきたけれども、その教育者というものはほとんどが障がいがない人が教えるということが多い。だけれども、自分的にそれはすべてが正しいわけではないと感じた。具体的にどのようなことかという、体育の授業などでは障がいのある人が実際に体の動かし方などを教える方が伝わりやすいのではと感じる。同じ悩みを抱えている人同士が教え、教えられることによって、わかりやすく、伝わりやすいと感じる。学習面でも同じようなことがいえると思う。学習面で苦手と感じるポイントや、得意と感じる部分が少なからず、同じ障害を抱えている人とは似ている部分がある。教育者が障がいがある人であることによって障がいへの理解力も高まるし、学習面などだけではなく、日常生活において抱えている問題を一緒に考えてあげるなど、障がいのある人が教えることが出来ないことまでも教えることが出来ると感じる。またそうすることで、障がいのある人は、つける職業の種類というものを制限されるといった傾向があるのでそういう教育機関への就職できるようになることによって、より幅広い分野での活躍が期待できると考える。よって障がいのある人が教えることで両者にとって大きなメリットを与え、より理解しやすい教育というものにつながっていくのだと思う。